



名広渉第 88 号
平成 28 年 12 月 16 日

沖縄防衛局長
中嶋 浩一郎 殿

名護市長 稲嶺 進



名護市安部集落前の海岸に墜落した米国海兵隊MV-22オスプレイについて（照会）

平成 28 年 12 月 13 日午後 9 時 30 分頃、名護市安部集落前の海岸に米国海兵隊MV-22オスプレイが墜落しました。翌 14 日午後 2 時 30 分、抗議のため訪れた沖縄防衛局において「現時点の把握状況」として本件に関する説明を受け、15 日に防衛省の「MV-22 オスプレイの不時着水事案について」の資料を確認し、16 日に防衛副大臣の説明も受けましたが、納得のいくものではありませんでした。

よって、別紙の疑義について照会いたします。市民に対して早急に説明する必要がありますので、平成 28 年 12 月 26 日までにご回答のほどよろしくお願ひいたします。

1. 墜落の状況について

- ① 防衛省の資料によると「沖縄東方の海上（約 30 km 沖合）で、米空中給油機 KC-130 からの空中給油訓練を実施中、プロペラが給油ホースを切断したことにより、プロペラのブレード（羽）が損傷し飛行が不安定になった」とあるが、米軍が沖縄近海約 30 km で空中給油訓練を実施していること自体、問題ではないのか。
- ② 事故の直接的な原因は、ブレードを給油ホースに接触・損傷させ、飛行を不安定にしたパイロットの人為的ミスということか。
- ③ 事故機の飛行が不安定になった地点はどこか。また、時刻はいつか。
- ④ 事故機は飛行が不安定になった地点からどれくらいの距離を、どのようなルートを通り墜落地点まで飛行したのか。
- ⑤ 防衛省の資料によると「海岸沿いを飛行していたが、途中、辺り着けないと分かったため」とあるが、パイロットが辺り着けないと理解したのはどの地点をいつ飛行していたときか。
- ⑥ 事故機のプロペラは墜落時、固定翼機モード、転換モード、ヘリコプターモード、いずれの形態であったか。

2. 墜落直後の対応について

- ① 事故の一報が防衛省に入ったのはいつか。また、どこからの情報か。
- ② 13 日 22 時 28 分に防衛大臣より「地元への説明など、対応を確実にすること」と指示があったにもかかわらず、防衛省が墜落地点を「洋上。名護市南海岸から 1 マイル付近（14 日 0:09）」や「名護市東海岸から約 1 km 沖合（15 日 16:02）」と誤表現し続けるのはなぜか。
- ③ 防衛省職員が墜落現場を訪れ状況を確認したのはいつか。
- ④ 14 日に沖縄防衛局から「現時点の把握状況」は米軍からの情報を和訳していると説明を受けたが、今回のような事態が発生した際に米軍からの情報を地元自治体に伝えること以外に、防衛省としてどのような対応が可能か。
- ⑤ 14 日に抗議のため訪れた沖縄防衛局において、13 日に発生した普天間飛行場における MV-22 オスプレイの着陸装置の不具合の件に対する説明がなかったのはなぜか。

3. 今後の対応について

- ① 事故機に放射性物質が含まれる部品及び搭載品などはあるのか。
- ② 環境調査は実施するのか。
- ③ 墜落現場の規制が解かれるのはいつごろか。
- ④ 本事故を受けて、防衛省として米軍との調整や地元自治体への情報提供のあり方に改善を図る意向はあるか。
- ⑤ 今回、事故が起きた空中給油訓練もそうだが、米軍の訓練に関しては、実施日時、内容の詳細が地元自治体にも知らされていない。防衛省として状況の改善を図る意向はあるか。
- ⑥ 本照会に対する回答については、米軍側に確認し回答するものも含まれると思料するが、米軍側が情報提供を拒否する場合や名護市の求めている情報が得られない場合に、防衛省としてどのような対応が可能か。